

「グローバル」×「地域連携」を通じた グローバル教育の実践研究

A Practical Research for ‘Global Education’ & ‘Community Engagement’

Social Communication Development of the Exchange Program
with Nordic Countries

谷 萩 真 樹

YAHAGI Masaki

Abstract

This practical research shows how ‘global education’ and ‘community engagement’ can work together using an example of Tsuru University’s new study abroad program with Nordic countries. Firstly, it explains why the university started this unique and innovative program and how a regional university like Tsuru can lead the exchange program to be successful in a long term. Secondly, it describes the key factors to enhance satisfaction levels of both Japanese and Nordic students, with a support of professional staff who can connect students from overseas and surrounding local communities, using some of practical examples.

Keywords

Global Education, Community Engagement, Nordic Countries, Exchange Program, Glocal
グローバル教育、地域社会との連携、北欧諸国、交換留学、グローバル

1. はじめに

都留文科大学は、地方の公立大学として60年以上の歴史を持っている。現在では、本大学が公式ウェブサイトに掲げるスローガンも「グローバル×地域連携×教員養育力」および「Think Globally, Act Locally」となっており、学生たちは、地方にありながら国際社会と結びつき、地域に学びながら国際的な課題と向き合っている。(都留文科大学(2021))

筆者は、「国際教育学科」、「地域社会学科」と「全学共通科目」において、英語やバイリンガルで行う授業も担当してきた。また、留学生サポートと受け入れ体制の充実もその職務としている。「グローバル×地方活性化」(＝グローバル)という、大きな時代のニー

ズに対して、「どのようにすれば、地域コミュニティと連携した国際交流を実現できるか?」、および「培ってきた国際的視野をいかに地域活性化に貢献できるのか?」というテーマに対して取り組んできた様子を報告し、大学教育の一助となるよう貢献したい。

2. 留学生にとっての大学周辺の現状

大学が位置する都留市は、人口約3万人(2021年8月31日時点で29,590人、在留外国人579名を含む)の小都市である。本学以外にも2大学(健康科学大学看護学部、産業科学短期大学校都留キャンパス)があり、年齢別人口統計において、大学生の年齢層(主に18歳~22歳)が際立って高いのが人口動態の特徴である。(都留市市民課(2021))それぞれ分野が異なる高等教育機関があるアカデミックな地方都市であることが、現在の都留市の大きな特徴となっている。

地方の小都市は、日本の文化と伝統的な生活を感じさせ、海外留学生にとっても魅力が大きい。都留市は城下町としての古き良き町並みがあり、多くの古寺や文化史跡が点在し、「ミュージアム都留」「尾県郷土資料館」という博物館施設もある。富士山周辺の豊富な水資源など、さまざまな環境問題を学ぶフィールドとしても適している。また、山梨県も独自に国際交流の政策を策定しており、都留文科大学生も留学生日本語スピーチコンテストなどさまざまな活動に参加している。(山梨県(2020))大都市に居住して大規模な大学に通学することに較べて、このような地方都市の中規模大学への留学は、地域の文化や人々と密着した、中身の濃い留学生活が魅力となるだろう。

本学における海外からの留学生は、長らくアジア圏(主に中国と韓国)が中心であった。1996年より湖南師範大学(中国)、1998年よりカリフォルニア大学(米国)の留学生受け入れを始めて以降、徐々に拡大を続けて、2013年には留学案内の拠点となる「国際交流センター」、2016年には、留学生の宿泊先および日本人学生との交流の場となる「国際交流会館」が開設された。そして、2018年の国際教育学科の開設に伴い、北欧交換留学が始まったことで、欧米を含む世界中から、毎年100名を超える留学生を受け入れるまでに至った。(国際交流センター(2021))

留学生数の比率からすれば、本学の留学規模はまだ大きいとは言えないが、国際的環境と地域連携は確実に成長をしており、「Think Globally, Act Locally(=グローバル)」の意識をバランス良く持つ教育を提供することは、所属学科や専攻分野に関係なく、現代社会の複雑化した諸問題を理解/解決していくための教養として、必要不可欠な要素になっている。

3. 国際教育学科の北欧交換留学の意義とは?

国際教育学科は、真の国際感覚を持つ人材・教育者(Global Educator)を育成することを目的に設立された。とりわけ、2年生の後期には、希望者全員が北欧諸国に交換留学

することを前提にカリキュラムが編成されている。ここで、なぜ「北欧留学」なのかを、ここで考えてみたい。国際連合の持続開発可能ソリューションネットワークが、毎年、発表する「世界幸福度ランキング」において、北欧諸国の「幸せな社会づくり」の評価が世界の最上位にあることは既に有名であるが、2012年に統計が開始して以来の10年間、北欧5カ国（アイスランド、スウェーデン、デンマーク、ノルウェー、フィンランド）が一度もトップ10入りを逃していないという結果は、驚異的ですからある。（Sustainable Development Solutions Network: A Global Initiative for The United Nations (2021) 22）



(引用：世界幸福度ランキング World Happiness Report 2021 国連とその提携研究機関による発表)

現在の北欧諸国は、人権・教育政策・社会福祉・環境対策だけではなく、「経済競争力」や「人や環境に優しい街づくり（スマートシティ）」でも、世界のモデル的先進国となっている。（中島健祐（2019）20-22）一方で、高度成長期以降、経済力で存在感を示して来た日本は、「国際開発研究所（略称 IMD：本部はスイス）による世界競争力ランキング」において、2020年で34位と低迷を続けている（酒井博司（2020））。逆に北欧諸国は経済競争力においても上位に来ているという結果（例：2位スウェーデン、3位デンマーク、6位ノルウェー）は、北欧が「理想主義」だけではなく「現実主義」に基づいた社会づくりに成功していることを示している。それ以外でも、「民主主義の成熟度」の大事な指標とされる「報道の自由度ランキング」において、2021年で1～4位を北欧諸国が独占している（Reporters Without Borders: World Freedom Press Index: Index Details - Data of Press Freedom Ranking 2021）など、我が国だけでなく世界中の国々が見習うべき点が多くあり、交換留学提携先としての大きな魅力となっている。

Data of press freedom ranking 2021

▼ Countries & regions	Abuse score	Underlying situation score	Global score	Diff. score 2020	Diff. Position 2020
1 Norway	0	6.72	6.72	-1.12	0
2 Finland	0	6.99	6.99	-0.94	0
3 Sweden	0	7.24	7.24	-2.01	1
4 Denmark	0	8.57	8.57	0.44	-1

(引用：世界報道自由度ランキング Press Freedom Index 2021 国境なき記者団による発表)

以上で示したような国際比較データを分析していくと、一般的評価として、北欧諸国が日本より多くの面で優れている現状にある。その中で、民主主義の最先進国とも言える「北欧諸国」との交換留学を、中規模の地方の公立大学が成功に導くということは、大いなるチャレンジである。特に、来日する北欧留学生は、全員が教員志望であるということもあり、一人ひとりの学生が極めて意欲的であり、自分の人生と社会の幸せに貢献する人物になるために積極的に学ぶ姿勢が、本学の学生の模範となることが期待されている。

一方では、「北欧留学生が、都留文科大学への留学を通してどのようなことを得られるのか？その期待に応えるプログラムを提供することができるのか？」ということが、(交換留学担当教員として着任した際に)大きく懸念される事であった。筆者自身のオーストラリアでの大学留学の経験を踏まえて、同学科の教員/スタッフと議論を進めた結果として、北欧留学生の満足度を上げるためには、以下の項目を大切にすることが、交換留学の存続および成功につながるという考えに行き着いた。

北欧留学生にとっての交換留学の参加意義

- 日本（都留文科大学）に来たからこそできる体験を提供する（異文化体験の充実）
- 日本人学生との深い交流機会や友人関係を広げる（心と心が触れ合う交流機会）
- 地域コミュニティとの交流を広げる（国際交流の枠を大学外に広げる実践）
- 留学生の相談/要望をいつでも聞き受け入れる機会を設ける（充実したサポート体制）
- 自国と全く異なる教育法や社会を知ること、知見を広げる（国際的視野の拡大）

全体的にみると、在学生と留学生の間には、英語力や教養面で大きな差がありながら、「両者が満足する交換留学プログラムにするためには、どのようにすれば良いのか？」「それぞれが求めているニーズを満たすためにはどのようなアプローチや工夫が必要か？」という問いに対して、オーストラリアで留学/起業してきた自身の経験が大いに生きたと感じる。

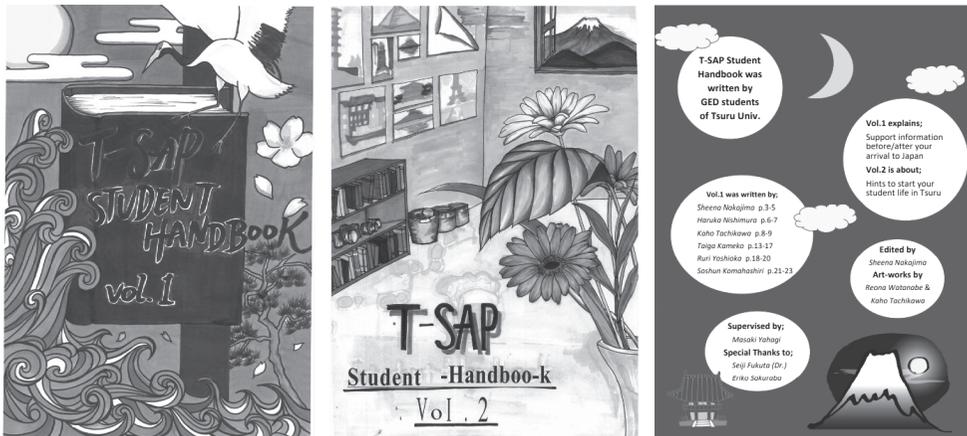
本学に限らず、交換留学の目的は、異文化交流を通じた人間的成長（広義的には国際協

調への貢献も含む) にあり、国際経験豊かなスタッフがサポートをすることで、留学生と在学生の間にあるアカデミックな溝は、埋めることができる。長年に渡り、「人と人をつなぐ」「人と自然/文化をつなぐ」ことを、実践的に創意工夫して重ねてきた経験は、現在、留学を担当する大学教員としても大いに活用できるとの確信を得ることができた。留学を通しての人間の成長は、即座にその効果を実証できるものではないかもしれないが、交換留学に参加した学生たちが、母国に帰った時に、周囲の友人にも都留文科大学への留学参加を薦めたいような結果が続いていけば、交換留学は自然と長期的な成功につながるし、それは、世界大学ランキングや「…大卒」「…大学博士号」取得などの称号を得る目的で集まる海外留学とは全く異なるタイプの、「真の国際交流/教育事業」の成功例となり得ると思われる。

4. 北欧交換留学を通じたグローバル交流事業

(4-1) ガイドブックの作成

インターネットの情報が普及した現在では、留学生たちはガイドブックなしでも、ウェブサイトから情報を得て、各地を旅行/宿泊することができるが、都留市周辺のことに関する外国語の情報は極めて少ないため、筆者は国際教育学科の学生有志13名と共に3冊のハンドブック(①留学準備編 谷萩真樹(2020a)、②生活スタート編 谷萩真樹(2020b)、③家電機器マニュアル 谷萩真樹(2020c):総計50ページ分)を作成した。



学生と協力/指導をして作成した留学生向けハンドブックの表紙と裏表紙

巻数	目的	主な項目
1	留学準備編 ⇒留学申込が完了後メールで配布した	①最重要項目チェックリスト、②都留市の地理や気候、③日本における現金とクレジットカード事情、④東京国際空港から都留文科大学前駅への交通手段、⑤電源/電圧と携帯電話(SIMカード購入法)、⑥緊急連絡先(外国人サポートライン、各国大使館、大学スタッフなど)

2	生活スタート編 ⇒来日1カ月前にメールで配布した	①都留に到着後の1週間の予定表、②生活費に関する詳細(アパート代、光熱費などの目安)、③アパートや布団の使い方、④大学内での無料Wi-Fiの使い方、⑤大学周辺の医療関係機関の紹介、⑥買い物に便利なスーパーなどのお店と、お薦めレストラン、コンビニエンスストアの紹介、⑦フィットネスセンターの使い方、⑧音楽棟のピアノの使い方、⑨喫煙に関して
3	家電機器マニュアル ⇒到着日に配布した	①洗濯機、②電子レンジ、③調理コンロ、④炊飯器、⑤エアコン、⑥ブレーカーパネル、⑦トイレのウォッシュレット、⑧アパート経営者や不動産とのトラブル回避のポイント、⑨冬季の水道管破裂への注意

【英語表現の工夫】

英語表現では、北欧留学生も英語ネイティブではないことを考慮に入れて、誤解を招かない文章の明解さと、実用性の高さが求められた。例えば、学生によっては「この学科での教育では、何事も自分で調べるように指導を受けてきたので・・・」という理由で、数行のみの短文でドラフトを提出する者もいたが、打ち合わせを繰り返しながら、「内容を充実させると同時に、必要以上にページ数を増やさずに重要事項を優先すること」、「イメージを多用して見やすいレイアウトを心掛け、留学生の交換留学に対する期待度を高めるような完成度を目指す」という全体意識が共有されるようになった。

【学生の成長】

ハンドブック作成に関わった学生ボランティアたちの成長につなげることは、当初からの大切な目的であったため、学生が書いた文章や構成を添削指導する際には、モチベーションを向上させるために、十分な心遣いが大切であることを強く意識した。特に、この機会を通して、英語表現力の上達だけでなく、パンフレットの企画/製作/校正の仕方を学び、留学(または海外在住)をする際に必要とされる情報収集の仕方を、これから留学する日本人学生たちが学ぶ良い機会であった。また、作業を進める中で、多くの学生が冠詞用法など(例:どのような場合にthe/a/anを使い分けるのか?)が苦手であることが分かり、英語表現に関するミニレクチャーを同時開催した。

実際には、意欲が高くたくさん質問をしてくる学生も入れば、英文の添削箇所が多かったことで、逆に落胆してしまうという例もあったので、学生ボランティアとの共通理念として、①留学生の立場から考えた場合の使いやすさを最優先する、②将来に渡って、使い続けられるものを作成する(後輩の役に立つ完成度の高さ)、③校正の際は、学生が原文で伝えようとした表現/内容を大事にするという、3つの目標を共有できたことが、結果として成功につながったと考えられる。第1期北欧交換留学生として、留学体験のある学生も数名いたので、実際の体験談も重ね合わせて議論を続けた結果、約2カ月間の製作期間を経て完成に至った。また、適材適所を意識しての役割分担、特に、表紙のイラストに関しては、絵画が得意な学生に依頼したことで、スムーズな作成につながった。(上記に転載したように、都留と北欧をつなげるイメージを上手に描き出してくれた)

【留学生からの評価】

完成したハンドブックは、来日する北欧留学生全員と、提携校の国際コーディネーターに配布されたが、デンマークの全教育大学の留学担当者が集まった会議でも、非常に高い評価を得たとの報告を受けた。また、特に「留学準備編」での「空港から都留文科大学への交通手段」(谷萩真樹 (2020a) 10-14)は、空港で携帯電話のSIMカードを購入しなかった学生も多く、日本に来るのが初めての学生ばかりだったにも関わらず、誰一人迷うことなく時間通りに都留文科大学前駅に到着できたという結果からも、「このハンドブックが役に立った」と留学生間から大変評判が良かった。

(Step-1) From 'Airports' to 'Shinjuku Station'

(Step-2) From 'Shinjuku Station' to 'Otsuki Station' (#2,776)

(Step-3) From 'Otsuki Station' to 'Tsukubakandaigakusei-Station' (#870)

② KEISEI Skyliner (#2,520)

③ From 'Haneda Airport' to 'Shinjuku Station' (#600-700)

④ You need to prepare cash

⑤ Cash withdrawal by credit cards

⑥ After arrival at Tsuru City

⑦ [Useful Shops for Daily Life]

⑧ [Restaurants and Pubs]

⑨ [Mitsubishi-Maru (Jap. Restaurant)]

⑩ [Kawafuji (Japanese Restaurant)]

⑪ [Bunchan Tsuru (Cafe)]

⑫ [Nanairo-komugi (bakery)]

⑬ [The Twisted Wheel (Bar/Nightclub)]

成田 / 羽田の両空港から都留への交通アクセスに関する説明

There are some important things when you are using money in Japan. Japanese yen (JPY or ¥) are composed of coins = 1 yen, 5 yen, 10 yen, 50 yen, 100 yen and 500 yen, and bank notes (paper) = 1,000 yen, 5,000 yen, and 10,000 yen. Quite enough, you can exchange US\$1 equals to ¥100.



- ① You need to prepare cash
- We recommend you to exchange around 20,000 yen (dry cash) at money exchange shops at international airports or banks of your country.
 - In Japan, payment in cash is still more common than card payment. You cannot always use credit cards at shops & services.
 - It is convenient to bring a wallet for cashless.
- ② Cash withdrawal by credit cards
- International airports (Narita/Haneda)
 - Tsuru University (ATM in front of university cafe)
 - Convenience Stores (Family Mart & 7 Eleven)
 - Money exchange shops in neighboring areas in Tokyo
- ③ After arrival at Tsuru City
- Credit cards (used in foreign countries) are not usable at majority of shops/services in Japan. Please bring at least one credit card with you. Visa or Master cards are the most widely accepted.
 - Once you start your student life in Japan, you are required to pay your accommodation rent and utility bills, etc. in many cases. GEI and Tsuru University receptions accept only cash payment.
 - Please make sure that you have sufficient funds in your (own country's) bank account in order to withdraw cash in Japan.

日本についてから必要になる現金、買い物、食事処などの説明

【出迎え態勢の工夫】 (谷萩真樹 (2020a))

2019年度に来日した北欧留学生の内訳は、デンマークの6つの教育大学 (UC Denmark) から26名、スウェーデンの名門ウプサラ大学から7名であり、各々が異なる日程や飛行機で来日計画を立てたので、指定した2日間の朝9時~夜7時までに都留に到着するように事前通達した。都留文科大学駅前に到着の前に、大月駅に到着した時点で

Facebook のメッセージ機能を使い連絡をしてもらうことをハンドブックに重要事項として記載して、「いつ駅前に迎えに行けばよいのか?」「何名が同時にその電車に乗って来るのか?」を事前把握できるような態勢を整えて、学生たちの人海戦術で対応した。

東京に宿泊 / 観光をしに来る留学生も数名はいたが、2019年度来日した33名のほとんどは日本到着日に都留まで移動してきた。駅前で出迎えをした際、留学生1名につき約2名の学生サポートが入り、アパートまでの案内と鍵の引き渡し、当日 / 翌日の食事の確保 (スーパーやコンビニなど)、または体力に余裕のある学生にはキャンパス紹介や夕食会への誘いなどを行った。全体を通して、主だった混乱もなく、翌日のオリエンテーションに留学生全員が参加することができた。ハンドブック作成がしっかりと役割を果たして、受け入れがスムーズに開始できたと思われる。

【家電機器マニュアル】(谷萩真樹 (2020c))

都留のアパートに留学生が到着した後に、すぐに懸念されることのひとつは家電機器の使い方であった。この交換留学では、北欧留学生は (大学宿舎でなく)、同時期に北欧に留学中の日本人学生のアパートに入るという方法が取られた。そのため、各部屋にある家電機器には統一性がなく、英文説明書も付記されていないため、使用上 / 安全上のトラブルが起きかねないという懸念があった。そこで、別冊として「家電機器の使用法マニュアル」を作成して、アパート到着時に配布することにした。海外に在住経験が長い筆者は、多くの移民や留学生が、慣れない家電使用の際にトラブルを起こした例を実際に見てきた。このマニュアル作成の際にも、留学生が困ることや、質問をしてくると思われる事柄が、経験上から予測できたことが役に立った。学生が作ったものは「Don't use many machines together. It is dangerous.」のような直訳的な記述が多かったので、ミーティングを繰り返しながら「Please try to avoid using high-volume electric machines together such as...」(谷萩真樹 (2020c) 7) というような記述に修正した。学生は、直訳や命令形ではない、丁寧かつ明解な書き方について、学んだようである。

Washing Machine

A washing machine is directly attached to a water line that needs to be opened up every time before use. Connectors for a washing machine can be found both (or either) inside and/or outside of your apartment.

To use a basic automatic washing cycle, firstly, you need to turn on your machine by pressing a 'power button' (電源 / 電源投入)

In most cases, all instructional words on control panels are written in Japanese. Thus, please refer to the following guide (below) or please do your online search by typing 'how to use Japanese washing machine'. (You will find instructions by **help**.)



There are many buttons which allow you to decide what kind of washing courses you want to set for your laundry or what type of clothes you need to wash. For an automatic wash, just press a 'power button', and then, press 'start' (スタート). Usually, this 'automatic course' is the easiest way to wash your clothes. An operation panel will light up and show you in which stage your washing cycle is progressing now.



Please use your lint-trap/basket when to dry off your clothes. You can find many useful laundry materials at local shops such as 'Seirin' or 'Caret'. There are 2 coin laundries around Tsukuba Univ. If you want to dry your clothing quickly, please don't forget to dry your 'futon mattress' and 'blankets/quilts' in the sunshine on sunny days. Also, make sure to clean up inside of washing machine regularly.

2

Stove Burner / Induction Heater

A) Gas Stove Burner



The above picture is a typical 'gas stove burner' for cooking in Japan. In order to start a fire, press down a knob (light gray) and turn it down to the left-hand, then you will hear clicking sound and an igniter starts to light a fire. The middle tray is for grill (fish or meat) which is started by a knob of a different color (dark gray). Please note colors of knobs are variable by different models. To turn down fire strength, you need to turn the knobs toward right-side.

電源 / 電源
グリス / Grill
止 / Stop
止 / Open

*Please be fully responsible whenever you use fire. It must be stopped completely at the time when you are not cooking. Double-check before you go out, leave kitchen or asleep.

B) Electric Induction Heater



Some apartment-units have electrical induction heaters for cooking. Basically, the functions (in how to use) are universal and should be similar to the ones in your country, however, instructional words on control panels are written in Japanese. Please keep it clean and tidy every time after cooking.

電源 / Power
加熱 / Heat On/Off
アップ / Turn up
ダウン / Turn down
揚げ物 / Fried food On/Off

*Please be responsible to stop fire by pressing 'power off' or 'heat off' all the time when you are not cooking. Double-check before you go out, leave kitchen or asleep.

Rice Cooker

A) Electric Rice Cooker

Just like the microwave, not all the apartments have electric rice cookers. It depends on the previous tenant of your apartment (now, they study abroad at Nordic countries as exchange students). Please pour water (about 2cm higher than rice) before you press 'start cooking'. Never use it without sufficient water inside, otherwise it may be overheated. **Please keep it clean and tidy as often as possible.**



電源 / 電源
スタート / Start Cooking (about 1 hour)
停止 / Stop / Cancel
予約 / Reserve time to be cooked
時分 / Hour / Minute
メニュー / Menu selection
白米 / White rice
玄米 / Brown rice
煮込み白米 / Express cooking for white rice

*If you are not sure about how to use a rice cooker, please ask Japanese students.

B) Cooking Pot

If you don't find an electric rice cooker at your apartment, you can still cook rice using a normal cooking pot. Either by electric or not, you need to rise (2-3 times) white-rice before cooking. If you are not familiar with cooking rice, please do your online search by typing 'how to cook rice'. (You will find instructions by **help**.)



5

家電機器の使用マニュアルの例 (洗濯機、ガスコンロ、炊飯器)

(4-2) 地元の人たちとの交流

筆者は、2018年度より「英語で環境インタープリテーション（日本人向け）」、そして2020年度より「Japanese Culture Fieldwork（留学生向け）」という授業を担当してきており、「国際交流×地域交流」のアイデアを企画/実践する良い機会となってきた。都留文科大学に近い富士北麓地域に住んでいることも、地域における人脈を広げて、地域の文化や魅力を学ぶ上で、非常に大きなメリットとなった。また、留学生たちの週末プラン、旅行計画作成に対する相談、および生活トラブル全般への対応、医療通訳サービスも担当してきた。旅行計画作成には、各地を訪問した際のお勧めレストランやお土産を知りたいというリクエストが多かった。これに対しては、全国各地から学生が集まっているメリットを生かして、在学生と直接に話す機会を設けることで対応した。医療機関に関しては、都留市に長く住んでいる知り合いから、腕が立つ評判の良い開業医、歯科医、接骨院などを聞き出し、筆者が医療通訳として同行した。大都市と異なり、英語対応の医療機関がほとんどないため、地方でも充実した医療サポート体制を提供できたことは、留学生の安心につながったようである。

【筆者が留学生に紹介した主なイベント】（卒業式以外は、すべて自由参加のイベント）

主なイベント内容	目主催者・共催者	特筆事項
来日歓迎会	学生＋筆者がアドバイザー役	学生たちが主体となり準備を行う段階から、筆者が毎月、相談/指導をした。漫才と落語が得意な学生を招待するなど、初めから盛り上がりを見せた。
八朔宵祭り・八朔祭り	都留市＋関係団体が主催 筆者がガイド役	江戸時代より続く、都留市最大の伝統行事。仲町町内会の協力を得て、屋台庫前での祈祷や出庫から始まり、大名行列や屋台を見学した。（途中から自由散策）
富士山登山	筆者が危険管理と事前案内を指導	富士山は、山地が少ない北欧学生には憧れの的であり、準備・危険事項を十分に説明して、届け出制にして参加を認めた。
部活動等への参加	都留文科大学の部活動・サークル＋筆者が仲介役	日本ならではの部活動に参加してみたいという留学生の声が多く、部活動・サークル活動参加へ特別参加する道を開いた。
宝鏡寺での座禅体験	宝鏡寺＋都留ロータリークラブ＋筆者が仲介役	都留ロータリークラブの誘いで、日本人学生が同伴して、座禅体験（朝食付）のイベントを紹介した。
流鏝馬祭り	小室浅間神社＋筆者が仲介役	平安時代から続く伝統と由緒ある神事で、地元のボランティアの方々が、留学生のために和服を用意してくれた。
マルシェへの出展（じょいつる市場）	都留市産業課＋筆者が仲介役	大型台風19号により中止となった。 ⇒特別ブースを開き、地元の子供たちとの交流会や会話教室を予定していた。

学園祭 (桂川祭)	都留文科大学 + 筆者は準備段階からアドバイザー役で入った	ステージパフォーマンス、スポーツ大会、北欧カフェ&展示ブース (教室全体を使ったすごろくなど日本伝統ゲーム) を含めて、ほぼすべての留学生が参加した。
近隣の小学校・および高校での国際交流	国際交流会館主催 + 筆者が紹介	国際交流会館に在住するアジア人学生と北欧留學生と一緒に、近隣の学校を訪問して、英語で北欧文化などを紹介した。
都留ロードレース大会	都留市などが関係団体と主催	10キロまたは3キロの短距離マラソン大会に、在學生と留學生と一緒にランナーとして参加した。
富士山マラソン	日刊スポーツ社などが主催	留學生は、日本人学生と共に大会ボランティアとして地域交流に参加した。
ムササビ観察会	地域交流研究センター+ 筆者が通訳として参加	北垣憲仁先生の協力で、留學生枠を2回分作ってもらい、筆者が英語通訳をした。(⇒ムササビは欧州にはいない生物種)
富士山周辺デイトアー	国際交流会館 + 筆者が英文ポスターを作成	大学付属の国際交流会館が、毎年主催している、留學生向けの富士北麓名所巡りのデイトアーを紹介した。
地元の子供たちと交流会 × 地域起こし協力隊 × 地域交流サークル × 北欧留學生	都留市の地域起こし協力隊、学生サークルと筆者の共催	都留市所有の「エコハウス」を使い、地域の子供たちとの交流事業を行い、日本の伝統的な子供遊びやゲームと一緒に体験して楽しんだ。山梨のTVでも報道された。
日本舞踊ワークショップ	国際教育学科 教員3名が主催	室町時代から続く「幸若舞」の師範を招待して、実演見学および実技指導の体験会を音楽棟のホールで開催した。
クリスマスパーティー	北欧留學生たちの主催+ 筆者も参加	北欧留學生たちが全員で、北欧料理に腕を振るって開催してくれて、日本人学生や教員を招待して大いに盛り上がった。
卒業式・送迎会	国際教育学科の教員と学生の共催	卒業証書授与、参加型ゲーム、歌や演奏、日本人学生と北欧留學生による漫才、記念撮影会などで別れを惜しんだ。
※上記一覧は、筆者が関与しなかった、生徒同士での交流会や個人的な旅行などは含まない		

【授業と関連して行われた地域の学校/子供たちとの交流】(主にインターンの授業の一環)

訪問先	引率者	内容
富士北麓地域の幼・小・中・高の学校訪問 / 交流	筆者は、すべての学校に引率教員として訪問	幼稚園×2、小学校×2、中学校×1、高校×2を訪問、様々な授業見学、部活動見学&体験、生徒との交流会、一緒に昼食会、校長先生や先生方との対談などを行った。

東京のインターナショナルスクールの訪問	筆者は大学から往復バスによる引率を担当	留学生全員が、貸し切りバスに乗って、東京のインターナショナルスクールを訪問した。校内では代表による挨拶の後、学校内の授業を自由に回り見学した。
都留市内への小学校富士吉田市の幼稚園運動会への参加	都留市内各小学校・富士吉田市の幼稚園＋筆者が引率・通訳	留学生が小グループに分かれて、都留市内6か所の小学校の運動会、および富士吉田市内の幼稚園の運動会練習を見学した。

コロナ禍で中断がなければ2020 - 2021年度に企画していたイベント

- 紅葉の楽山公園でのお茶会&俳句会
- ミュージアム都留での英語解説による文化・歴史学習
- 都留市商家資料館&尾県郷土資料館での英語解説による文化・歴史学習
- 地域の自然・文化を知る新しいエコツアーの開発
- 東桂の耕雲院本堂での映画「典座」鑑賞会（主演の河口智賢禅師の協力）
- 都留市役所産業課や街のToolbox（地域起こし協力隊）との国際交流連携事業
- 地域交流研究センターと新たな「グローバル事業（構想）」をスタート
- 宝ふれあいの里ネイチャーセンターでの子供たちと留学生の触れ合いイベント

【留学生と地域交流に関する考察】

筆者が特任教員として留学生指導を開始した時は、ちょうど北欧交換留学1年目が終わった時点であったが、北欧から帰ってきた留学生たち、および留学生受け入れをした在学生たちの声を聞くと「生活に慣れて、やっと仲良くなれたと思ったら交換留学期間が終わってしまった」という意見が多く聞かれた。そのため、「早い段階で、友好関係を高めるためにはどうすれば良いか？」と考えた際に、イベント交流の機会を増やすこと、および担当する授業の中で留学生と在学生が話す機会を、最大限に増やすことが効果的であると考えた。

留学生の参加意欲を正確に知ることも大事であり、来日直前の留学生全員にアンケートを実施した。質問項目は①「あなたの興味分野や趣味は？」②「あなたがこの留学に参加する目的や期待していることは？」③「どのようなイベントがあれば参加したいか？」であった。ほとんどの学生が、留学する目的や期待として挙げたことは、「異なる教育法を見て、自分が教員になった際の視野や教育法を広げたい」「日本人との交流、自然/文化体験を通して、異文化理解を広げたい」という主旨の回答が大半であった。

回答例 1) Q2: What are your goals, purposes or expectations with T-SAP?

Educational Goals	Learn from a new educational culture. I want to see how I can improve my class and Swedish educational system through politics.
Social / Cultural Experiences	Meet new awesome people to hang out with.
Travel / Outdoor Experiences	Explore wonders of Tsuru and nearby areas.

(回答者：留学生 J、男性、スウェーデン)

回答例 2) Q2: What are your goals, purposes or expectations with T-SAP?

Educational Goals	Explore different perspectives on teaching. It could be useful for my bachelor's thesis.
Social / Cultural Experiences	I found it interesting to explore different cultures, and T-SAP should offer me a chance to get greater insights into Japanese culture. I'm looking forward to make new friends from different countries.
Travel / Outdoor Experiences	I want to explore some less-known outdoor wonders of Yamanashi Prefecture.

(回答者：留学生 C、女性、デンマーク)

アンケート結果を受けて、できるだけ在学生や地域の日本人と交流する機会を設けることを心掛けた。どのような場合も「(準)強制参加」という形ではなく、それぞれの学生個人的意思 / 希望を尊重した「自由参加」であるべきであり、「多様な国際交流の場」を提供することが大事であるという意識を持って準備 / 企画を進めた。

留学生が来る事前から、近隣市町村のイベント情報や英文パンフレットを収集しておき、国際教育学科の学生ボランティアを募り、都留市の地域起こし隊、都留市産業課、地域交流研究センターなど、国際交流に貢献意識の高い人々の協力を得ることに務めた。前述した各種交流イベントは、留学生全員が参加している Facebook のグループに定期的に投稿をして通知した。また、直接のコミュニケーションも大事であるため、留学生全員の必修授業に毎回参加する許可を得て、授業後に留学生からの質問 / 相談に応じることで、生活サポートの充実を期した。その際に、授業に欠席している人の確認とその理由の把握 (特に健康状態のチェック)、イベント内容に対する質問、授業全体に対する改善点の希望や、生活面で困っている点などの相談を受けた。今後の改善に生かすために、その内容をまとめて学科に報告した。



(上記写真：筆者がFacebookのグループ上に投稿した例 ①八潮祭の案内地図(左上)、②台風19号で中央道/中央線が封鎖された際に緊急作成した東京～都留間の地図(左下)、③宝鏡寺での座禅会を呼びかける投稿、④じょいつの市場への参加を呼び掛けるために作成したポスター)

【異文化交流事業に大切なこと】

筆者は、オーストラリアで起業して、長くエコツアー/環境教育事業を主催してきたが、多くの人が感動することや喜ぶ体験とは(つまり、人の心に残ることは)、写真でも観たことのある有名な景色を見て写真に収めることなく、異文化に触れて初めて知ること、今まで体験したことがないこと、地元の人々との交流、地域の自然/文化の素晴らしさを知り見識を高めること、その中で「仲間と感動を共感すること」にあると実感してきた。そして、自分自身、その異文化を上手に伝えることのできる「インタープリター(解説者・語り手)」の大切さを追求してきた。異文化交流の「本質的意義」を考えた際、このことは交換留学にも応用して、該当することができると分かった。



(上記写真：左上より①来日歓迎会、②八朔祭り参加、③流鏝馬祭り参加、④国際交流会館での談話、⑤地域の子供たちとの交流、⑥都留ロードレース大会、⑦富士吉田市にある高校の茶道教室に参加、⑧日本舞踊のワークショップに参加、⑨卒業式における留学生たち)

前述したように、北欧留学生たちと日本人学生の間には、英語レベルや教養面でのギャップが存在したが、概して不満を抱く者は少なく、教員/スタッフや学生が心から歓迎していることを肌で感じて、様々な異文化体験や交流（食事、旅行、イベント、スポーツなど）を通して、日本人学生および交換留学生同士の友情も深まり、全体的に、この交換留学に対して高い満足度を得ることに成功したと思われる。筆者は、留学生や在生と共に時間を過ごす中で、多くの日本人学生が、自主的に留学生たちとの交流を深めていく姿勢、および学科と交換留学全体への貢献意識が徐々に高まっていると確信した。

【今後への課題】

課題点を挙げるのであれば、積極的に交流機会を利用して、留学生との友情を深める学生が多かった半面、全体的に交流に消極的な学生も少なからず見受けられたことである。授業内のグループワークなど以外での、学外における生徒間交流に対しては基本的に自由であるべきなので、取って指導はしなかったが、普段からおとなしい性格の学生や英語力に自信がない学生（またはその両方）も、この貴重な国際交流の機会を最大限に活用して、自身の人間的成長に役立てられるように、更なる教育的サポートの工夫を考えていきたい。

北欧留学生側からの不満／改善点の要望は、主に以下の2点に集約されていた。

- アパートに関する苦情：学生向けアパートの狭さは、多くの北欧学生には窮屈に感じたようである。特に1軒のアパートでは、隣家との距離が非常に近く、お互いに生活音が気になったことや、実際に近所から騒音の苦情が出たことがあった。
- 授業に関する苦情：留学生の期待に沿うアカデミックな内容でないという声が複数上がる授業があった。また、課題提出の時期が後半に重なり、もっと分散して欲しいという声も多かった。留学生の滞在期間は約4カ月であり、変則的に12月で終了するため、留学生向けの課題の出し方には、今後、学科内で工夫が必要だと思われた。

5. 今後の展望と課題

大学は、教育／研究／交流の場であると同時に、国／地域へ向けて新しいモデルを発信する場所でもある。「国際交流事業」にしても、「地域創生事業」にしても、新しいものを開拓／改革していく際は、多くの困難が伴うことが常である。そのために、様々な（海外・国内・地域からの）事例に学ぶ姿勢を忘れずに、試行錯誤を重ね続けて挑戦すること、地域の協力者（行政関連、教育機関、地域ビジネスとの提携も含む）を巻き込みながら推進することで、社会に貢献する「グローバル事業」は前向きに動き出すものである。「Think Globally, Act Locally」や「SDG's」などで社会を良くするために行動するということが「世界の共通認識」となりつつある現代の世界において、日本特有の常識に捉われずに、世界の進んだ見識・実例を参考にしながら、それぞれの地域の事情を深く見据えて社会貢献ができる「人材の育成」こそが、大学教育の使命だと考える。

悪化する環境問題／気候変動、少子高齢化／地方過疎化に加えて、先行きの見えないコロナ禍で、将来が不透明な時代だからこそ、「知」に根差した思考力や適応力が高い人材の育成の必要性は急務である。山梨県の富士北麓地域で唯一の本格的な大学（他には専門単科大学）である都留文科大学は、大都市の大学と比較して「地域創生への貢献」「国際化に対応した人材の育成」ができる幅が大きく、その期待に見合った役割を果たすべく、関係する教員／スタッフも、学生と共に様々な課題と真摯に向き合う姿勢が求められている。

最後に、教育における最も大事な本質とは、「個人と社会を幸せにする手助けをすること」、「時代の課題と正確に向き合い、改善するための知恵を高め合うこと」、そして「過去から受け継いだ歴史（伝統や反省）を未来へ受け継ぐこと」にあるという、謙虚な精神を、全ての教育者が決して忘れてはいけないという筆者の信念を記して、本論を締めたいと思う。

(参考文献)

- 都留文科大学 (2021) 都留文科大学公式ホームページ <https://www.tsuru.ac.jp/> 2021年9月22日確認。
- 都留市市民課 (2021) 『令和3年度 都留市 行政区別人口統計表』、2021年9月1日発行。
- 山梨県 (2020) (山梨県知事政策局国際戦略グループ) 『やまなし外国人活躍ビジョン～外国人の皆さんにとって‘第2のふるさと’となる県を目指して～』(PDF)、2020年2月策定、2～7ページ。 <https://www.pref.yamanashi.jp/kokusai/vision.html> 2021年9月6日確認。
- 中島健祐 (2019) 『デンマークのスマートシティー～データを活用した人間中心の都市づくり～』、学芸出版社。
- Sustainable Development Solutions Network: A Global Initiative for The United Nations (2021) *World Happiness Report 2021*. (PDF) <https://happiness-report.s3.amazonaws.com/2021/WHR+21.pdf> 2021年9月14日確認。
- 酒井博司 (2020) 「IMD 世界競争力年間2020からみる日本の競争力～第1回：日本の総合順位は30位から34位に低下～」三菱総合研究所政策・経済センター、2020年10月8日発表。
<https://www.mri.co.jp/knowledge/insight/20201008.html> 2021年9月13日確認。
- Reporters Without Borders 2021 (2021) 国境なき記者団 *World Freedom Press Index: Index Details - Data of Press Freedom Ranking 2021* https://rsf.org/en/ranking_table 2021年9月22日確認。
- 谷萩真樹 (2020a) 谷萩真樹 監修「T-SAP Student Handbook Vol.1 ～留学準備編～」都留文科大学国際教育学科、2020年12月11日発行。(表紙イラスト作画：立川果歩 国際教育学科第2期生、裏面イラスト作成：谷萩真樹)
- 谷萩真樹 (2020b) 谷萩真樹 監修「T-SAP Student Handbook Vol.2 ～生活スタート編～」都留文科大学国際教育学科、2020年12月11日発行。(表紙イラスト作画：立川果歩 国際教育学科第2期生)
- 谷萩真樹 (2020c) 谷萩真樹 監修「T-SAP Student Handbook Vol.3 ～家電機器マニュアル～」都留文科大学国際教育学科、2020年4月30日発行。

Received : September, 28, 2021

Accepted : November, 2, 2021